

HCG036-03

会場:202

時間:5月24日 11:15-11:30

## ネパール中央部，テチスヒマラヤ地域の三畳系泥岩に記録された大陸風化の変化 Decease of continental weathering in the Early Triassic in the Tethyan Himalaya, central Nepal

吉田 孝紀<sup>1\*</sup>, 川村 寿郎<sup>2</sup>, 鈴木 茂之<sup>3</sup>, メグ・ラジ・ディタール<sup>4</sup>  
Kohki Yoshida<sup>1\*</sup>, Toshio Kawamura<sup>2</sup>, Shigeyuki Suzuki<sup>3</sup>, Megh Raj Dhital<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 信州大学理学部地質科学科, <sup>2</sup> 宮城教育大学地学, <sup>3</sup> 岡山大学大学院自然科学研究科, <sup>4</sup> トリブバン大学

<sup>1</sup>Faculty of Science, Shinshu University, <sup>2</sup>Miyagi University, <sup>3</sup>Okayama University, <sup>4</sup>Tribhuvan University

ネパール中央部，マナン地域には古テチス海に堆積した三畳系堆積物が非常に良い状態で保存されている。この地域から採取された下部三畳系泥岩の化学組成は，三畳紀前期 (Griesbachian-Dienerian) での後背地の高い化学風化と，三畳紀前期後半 (Smithian) における急激な風化状況の低下を示す。この変化は，後背地の置かれた気候状況が化学風化を促す環境からそれを抑制する環境，すなわち温暖な状況から冷涼あるいは乾燥した状況へ変化したことを示唆している。この時期には世界的にアンモナイトの多様化が進み，海面水温の緯度格差が拡大しているとされる (Brayard et al., 2006)。そのため，この風化状況の変化は大きな気候変化を意味していると考えられる。

キーワード: 三畳紀, 大陸風化, 気候変動

Keywords: Triassic, continental weathering, climatic change